

小児麻酔における抜管関連合併症のリスク因子に関する 多施設共同研究へのご協力のお願い

全身麻酔を終える際に、呼吸を助けるための管（気管内チューブ）を抜去（抜管）します。この時に、子どもでは、咳や喉頭痙攣（喉がしまって息ができなくなる）などの合併症が起きやすい(15-20%) ことがわかっています。この合併症が起きやすい要因を調査することが目的です。



全身麻酔を受ける**18歳未満**の方を対象としています。

この研究のために、新たな処置や検査は必要なく、負担や特別なリスクはありません。普段通りに診療を行い、麻酔や抜管に関する情報（術前の風邪や当日の体調、診察所見、酸素飽和度など）を、匿名化し、収集いたします。研究結果は、学会や学術雑誌にて報告させていただきます。

国内の大学病院、小児専門病院を中心とした多施設共同研究です。
ご協力いただけない場合も、患者さんへの不利益はございません。
研究に関する詳しい内容や説明をご希望の方は、下のQRコードから
ご参照ください。



麻酔科医の診察時に、研究の参加への同意を確認させていただきます。
ご質問などは、下記連絡先までお問合せください。



国立成育医療研究センター 手術・集中治療部 糟谷 周吾
連絡先：kasuya-s@ncchd.go.jp

